

## とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	久米川保育園
日時	令和7年6月4日

### 1. 活動テーマ

<テーマ>

自然・・・4歳児「園外でいいもの（自然）を見つけよう」

<テーマ設定理由>

日ごろから身近な自然物に興味を持ち、散歩に出かけると草花を摘んだり、気づいたことを伝えようとする姿が見られている。自分達で育てたり、お世話をしたり、直接かかわる経験を持つことで、さらに興味を広げていけるようにテーマを設定した。

### 2. 活動スケジュール

6/4(水)～9(月)にかけてグループごとに「いいもの(自然物)」を見つけに園外に散歩に出かける。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ビニール袋
- ・プラスチックのコップ

### 4. 探究活動の実践

<活動内容>

散歩中に見つけた自然物に興味を持ち、摘んだり捕まえたりし、友達と思いや考えや知っていることなどを伝え合う。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>

グループ②の様子

公園で自然を探索中、藤棚の下の隅の方にきのこを見つけた4歳児A。

子A：（キノコを見つけて棒で突いている）キノコ！

B～C：（集まってきて同じように小さな棒を見つけてきて棒で突き始める）「何これ？」

A：ガントケの仲間とか、テングタケ系の仲間とかじゃないかな。

ちょっと虫が入ってるけど。

B：虫が入ってる？

A：もう古そう。このキノコね、よく見ると毒キノコっぽい。

これね、もしかしたらタマゴタケモドキだと猛毒の

毒キノコ。このキノコ食べるとしんじゃった人がいるんだって。

このキノコはね、たぶんね、この藤の木から生えるんだよ。

C：どこの木？

A：この藤の木（藤の木の側に近づきながら指さして見せる）。

この藤の木はね、このキノコの毒ってことなんだよ

子B：あったー！（雑草を抜く）

C：私もやってみよう

（雑草を抜いて見せる。つまんでいる草の部分ではなく根っここの部分を見せて笑っている）

A：ほら、根っこ（同じように雑草の草の部分ではなく根っこを見せる）

C：ほら見て、何かあったよ

B：かたつむりだよ、ほら。これさ、生まれたばかりだけどもうしんじゃったんじゃない？

かわいそうだから埋めておこう

子D：蔓が長く伸びた葉を水溜りに浸している。水溜りに波紋ができてのを見ています。

C：（違う場所で先ほどよりも長い根っこが見つかったことを保育者に見せている）

D：長い蔓をまだ水溜りに浸し続けている。やがて靴のまま水溜りに入り水溜りの中を歩き始める。

その後、長い蔓を引きずりながら水溜りを歩き出す。

B：その様子を見て水溜りに入る。



### 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

職員からの意見

・大人の知識を遥かに上回る博学ぶりに感心した。日頃から興味のあることに夢中になり、その思いに寄り添って子どもの探究心を満たす保護者の存在があるからではないか。保育園でも好きなことに熱中できる環境づくりや時間の確保ができることが子どもにとって真に探究心を満たすことにつながるのではないか。

・この場面でも、しんでいるということについての気づきがあった。自然の中であって生きていることと同時に存在していて、子どもなりの明確な違いを感じていることに気づいた。自然の中に身を置くことによって、それはより強く感じられることなのかもしれないと感じた。

・生きていないという理解が、かわいそうという発想に結び付いていることに感心した。埋めてあげようという考えは世界でも見られる自然発生的なしんでいるものへの哀悼なのかもしれない。

・雑草そのものよりも抜いて初めて発見する根っこに興味を感じているようだった。そこに面白さを感じていることがわかった。何度か抜いているうちに、もっと長い根っこはないかなという探究につながったのではないか。

・水溜りを見つけて、そこに長い蔓や棒を入れていたが、見つけた自然物（葉→根っこ→水溜りへ）を通じての連続性のある遊びだと感じた。自分でも入ってみたくなったのは子どもらしい姿だと思う。

・水溜りに長い蔓を浸してできる波紋に気づいたのか、或いは音がするのが楽しかったのか、または魚釣りをしている気持ちだったのか、子どもの心の中を想像することが楽しいと感じた。